

子ども特派員 わが街に行く！

この紙面は、自分の住んでいる街や校内活動を、自分たちで取材・編集する「子ども特派員」とともに編集しています。

今回の「子ども特派員」は、十和小学校6年生の川上真広さん、齊藤優介さん、稲葉寧音さん、亀田紗愛さん（写真左から）が、十和地区の自然を紹介します。

黒メダカ、タナゴが住む 自然いっぱいの十和地区

私たちは5年生の時、メダカの学習で黒メダカを使って学習をしました。この黒メダカが十和地区のメダカだと知り、ビックリしました。そこで私たちは、十和地区の川や用水路の生き物について調べました。



学校近くの飯村さんに聞きました！

十和小学校近くの中通川では、今と違ってとてもきれいで、夏はみんなで泳いだそうです。環境がとてもよかったので、ホタルも生息していたそうです。魚の種類は、今はあまり見られないナマズやかに、やまべなど多くの魚がいたそうで、獲った魚は食べていたそうです。

残念なのは、年々川的环境が悪くなり、川の水は汚れてきていること、ブラックバスやブルーギルなどの外来魚が多くなり、昔見られた魚が見られなくなってきたことだと話してくれました。川で泳げたことやホタルが生息していたことにビックリしました。



用水路にはたくさんの魚がいました

私たちは、用水路にはどのような魚がいるのかを調べるため、網を仕掛けてみました。前日に仕掛けた網を見てみると、黒メダカ、タナゴ、フナなどの小さな魚がたくさん獲れていました。全国的に黒メダカやタナゴの数が減っていると聞いていたので、こんなにたくさんの魚が獲れてとてもうれしかったです。



たくさんの魚たちがお出迎え

私たち十和小学校の昇降口には、犬小合わせて5つの水槽があり、毎日私たちを迎えてくれています。水槽の中には、川や用水路で獲れた黒メダカ、カネヒラ、タイリクバラタナゴ、ギンプナ、コイ、クチボソ、ニゴイ、ドジョウ、カワエビ、テナガエビなどがいます。

十和地区には、今でもたくさんの魚が生息しています。これからもたくさんの魚が住み続けられるよう、自然を大切にしていきたいです。

